

# B—25 洗淨剤の洗淨力試験についての一考察 (第5報)

## —天然汚垢による一試法—

ライオン油脂(株) 西田 敦  
○岡崎 典和

1. 天然汚垢衾布を用いる洗淨力試験法<sup>1)</sup>は家庭における実際の洗淨結果とよく一致し、再現性も良好であるが、汚垢布の調製に時間と労力をかなり要する。そこで簡略法として顔および首の部分を白布で摩擦し強制的に汚垢を付着させたものを汚垢布とする方法を、コルゲート社の報告<sup>2)</sup>を参考にして検討した。

2. 適当な大きさの試験白布を薄いフォームラバーをクッションとして直径約3 cmの円筒(例えば広口扁平蓋付瓶)の頭部にとりつける。円筒は2コを接近させて眼鏡型にとりつけ、同時に顔または首筋を摩擦して2コをほぼ均等にむらのないよう汚染させる。汚垢布を切半

し一対比較法により洗淨力試験を行なう。

洗淨試験機としてはラウンドロメーター，もしくはターゲットメーターを用い，洗淨前後の反射率より洗淨効率を求める。

3. 天然汚垢衿布法に比較して汚垢布が迅速にえられかつ反射率測定によるため客観的な評価を行ないうる。しかし，汚垢を短時間にしかも強制的に付着させたものであるためか，汚染度の弱いものは容易に汚垢が除去される。その場合，洗淨力の優れた洗淨剤を厳密に比較することは困難となるため汚染度の大きな汚垢布の調製に留意を要することを認めた。

- 1) 日本家政学会第12, 13, 15, 16総会報告
- 2) Detergent Age, March, p.16 (1965)